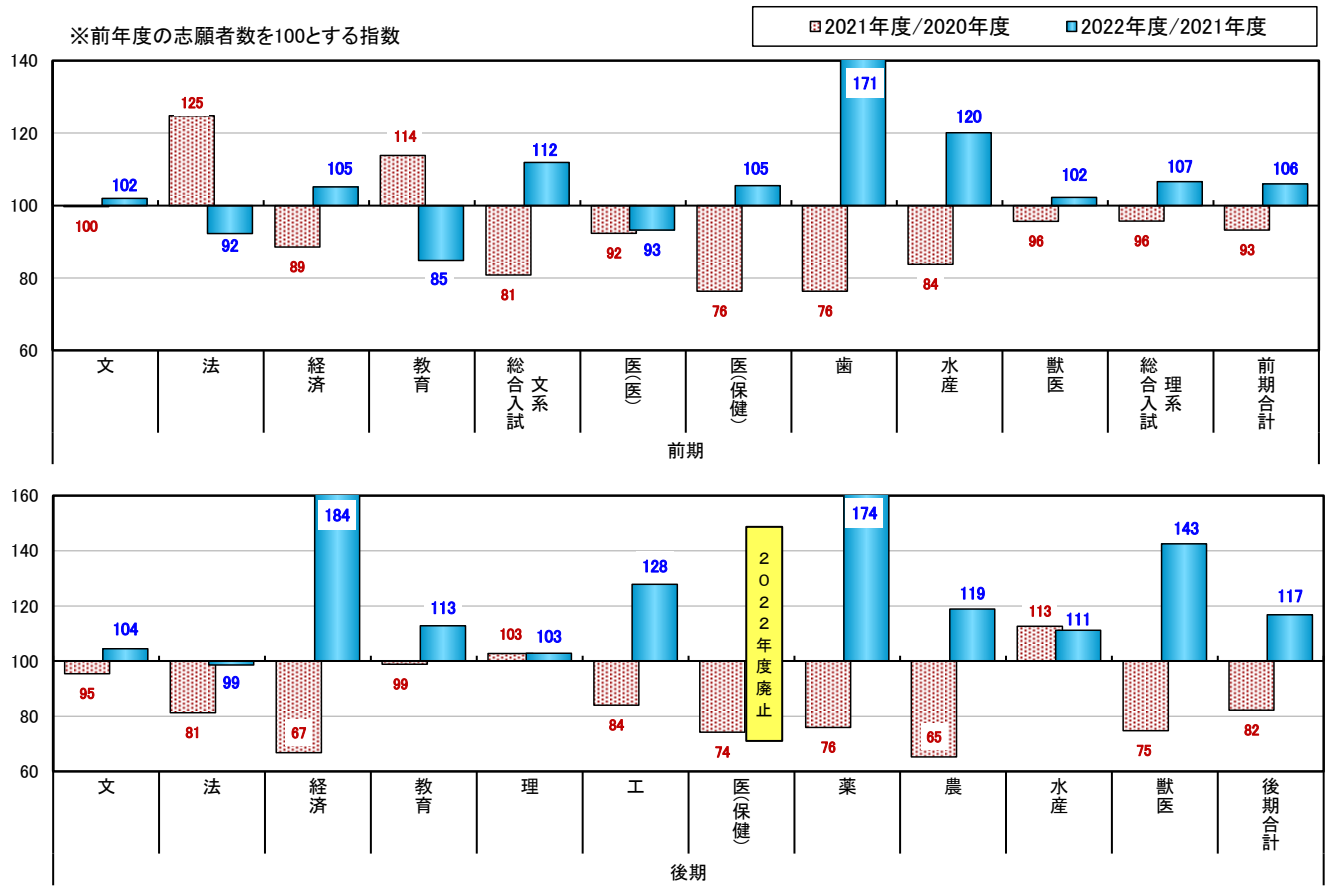


北海道大：前期はやや増加、後期は大幅増加

前期：+305人 後期：+590人



主な入試変更点

選抜方法：医(保健/放射線、検査技術、理学療法)…後期廃止
 募集人員：理(化学)…<後>23人→20人
 (数学)…<後>13人→10人
 (物理)…<後>10人→7人(総合型選抜の選考による欠員4人含む)
 (生物/高分子機能)…<後>5人→2人
 (地球惑星科学)…<後>9人→6人(総合型選抜の選考による欠員1人含む)
 工(環境社会工)…<後>52人→51人(総合型選抜の選考による欠員4人含む)
 (応用理工)…<後>38人→33人(総合型選抜の選考による欠員4人含む)
 (機能知能工)…<後>30人→25人
 医(医)…<前>101人→97人(総合型選抜の選考による欠員5人含む)
 (保健/看護)…<前>63人→64人(総合型選抜の選考による欠員4人含む)
 (保健/放射線技術科学)…<後>7人→0人
 (保健/検査技術科学)…<前>28人→35人(総合型選抜の選考による欠員10人含む)
 <後>7人→0人
 (保健/理学療法)…<後>4人→0人
 (保健/作業療法)…<前>13人→17人(総合型選抜の選考による欠員7人含む)
 歯…<前>39人→42人(総合型選抜の選考による欠員4人含む)
 総合入試理系(数学重点)…<前>129人→125人
 (物理重点)…<前>233人→225人
 (化学重点)…<前>233人→226人
 (生物重点)…<前>175人→169人
 (総合科学)…<前>248人→239人
 ※総合型選抜の選考による欠員の扱いによるもの
 医(保健/理学療法)…<前>13人→17人
 (保健/放射線技術科学)…<前>28人→33人
 水産…<前>111人→119人
 個別試験：文(人文科学)<後>…総合問題→論

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前年度はコロナ禍の影響で道外からの志願者数減少もあり志願者は10%以上減少したが、その反動もあって3年ぶりの増加となった。前期は305人(106)のやや増加。文理別では、文系は24人(102)で前年度並、理系は281人(108)の

増加。後期は 590 人(117)の大幅増加、志願者数も 4,000 人を上回った。文理別では、文系は 163 人(118)、理系は医(保健)で後期日程を廃止としたが 427 人(116)で、いずれも大幅増加。なお、2 段階選抜は後期日程の一部の募集単位で実施予告倍率を上回ったが緩和されて、前期、後期ともに実施されなかった。

<前期日程>

- 文(102)は、2 年連続減少の反動はなく前年度並。
- 法(92)は、前年度大幅増加の反動で減少。
- 経済(105)は、やや増加で 4 年ぶりに増加に転じた。
- 教育(85)は、大幅減少。2015 年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 総合入試文系(112)は、増加で前年度の反動による増減が継続。
- 総合入試理系(107)は、やや増加で 4 年ぶりの増加。募集人員は 34 人減少(募集人員の前年度対比指数 97)で、志願倍率は 2.5 倍→2.9 倍へアップ。選抜群別では、前年度大幅増加の(数学重点)(83)は大幅減少だが、その他の選抜群はいずれも増加。特に、(総合科学)(130)は大幅増加で、募集人員が減少(募集人員の前年度対比指数 96)だったので、志願倍率は 2.1 倍→2.9 倍へアップ。
- 医(医)(93)は、やや減少で 2 年連続減少。
- 医(保健)(105)は、やや増加で前年度の反動による増減が継続。総合型選抜の欠員による募集人員増加(募集人員の前年度対比指数 114)で、志願倍率は 2.1 倍と総合入試が導入された 2011 年度以降で最も低倍率。専攻別では、(保健/理学療法学)(168)は前年度大幅減少の反動が大きく激増、総合型選抜の欠員を加えた募集人員(募集人員の前年度対比指数 131)による志願倍率も 2.2 倍→2.8 倍へアップし、競争は激化。(保健/看護学)(111)は 4 年ぶりの増加。一方で、(保健/検査技術科学)(89)は減少で、総合型選抜の欠員を加えた募集人員(募集人員の前年度対比指数 125)による志願倍率は 2.6 倍→1.9 倍へダウン。
- 歯(171)は、前年度大幅減少の反動が大きく激増で、前年度の反動による増減が継続。総合型選抜の欠員を加えた募集人員(募集人員の前年度対比指数 108)による志願倍率も 2.2 倍→3.4 倍へアップ。
- 水産(120)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。
- 獣医(102)は、2 年連続減少の反動はなく前年度並。

<後期日程>

- 文(104)は、やや増加で 3 年ぶりの増加。
- 法(99)は、微減だが 2 年連続減少。
- 経済(184)は、前年度 30%以上の大幅減少の反動が大きく激増。志願倍率も 8.6 倍→15.8 倍へアップし、競争が激化。志願者数は 300 人を上回った。
- 教育(113)は、2 年連続減少の反動で増加だが、志願者数は 3 年連続 100 人を下回った。
- 理(103)は、やや増加に加え、募集人員が減少(募集人員の前年度対比指数 79)で志願倍率は 7.5 倍→9.8 倍へアップ。学科・分野別では、(生物/生物)(148)は 2 年連続大幅増加、(地球惑星科学)(137)は、前年度反動による大幅増加に加え、募集人員減少(募集人員の前年度対比指数 67)で志願倍率は 5.7 倍→11.7 倍へアップ。一方で、(生物/高分子機能)(39)は激減で、3 年連続減少。
- 工(128)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、前年度唯一増加の(情報エレクトロニクス)(80)のみ大幅減少、その他の 3 学科はいずれも大幅増加で前年度と対照的。特に、(環境社会学)(174)、(機能知能工)(162)の激増が目立った。
- 薬(174)は、前年度大幅減少の反動に加え、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発等の話題が多く報道されたことから関心が高まったことも影響し、激増。
- 農(119)は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。
- 水産(111)は、2 年連続増加。
- 獣医(143)は、2 年連続減少の反動で大幅増加。